

令和 **4** 年度 [2022年度]
橿原市文化財調査 **年報**

奈良県橿原市役所
2024年3月

序

榿原市は、特別史跡 藤原宮跡をはじめとする多くの遺跡や重要伝統的建造物群保存地区に選定されている今井町など、数多くの文化財が所在する長い歴史と文化が育まれた場所と言えます。

この年報では、令和4年度に行いました遺跡の発掘調査、文化財保護事業、普及啓発事業等の概要を報告いたします。

本書が、市民をはじめ多くの方々に、榿原市の文化財に触れていただく良い機会となれば幸いです。

なお、事業を実施するにあたりまして、ご協力いただきました方々ならびにご指導賜りました関係諸機関及び諸氏には心より感謝申し上げます。

令和6（2024）年3月

榿原市長 亀田 忠彦

例 言

1. 本書は令和4年度に奈良県橿原市役所魅力創造部文化財保存活用課が実施した、下記事業の概要をまとめたものである。
 - I. 埋蔵文化財発掘調査事業
 - II. 埋蔵文化財申請業務
 - III. 史跡整備事業
 - IV. 指定文化財維持管理事業
 - V. 無形民俗文化財保存事業
 - VI. 普及啓発事業
2. 橿原市では令和3年度まで埋蔵文化財行政を教育委員会文化財課が担当しており、令和4年度からは同担当部署が市長部局へと移管となり魅力創造部文化財保存活用課が担当している。
3. 各事業の調整事務は、露口真広、平岩欣太、石坂泰士、梅田善博が主に行い、他の課員が輔佐した。また、I. 埋蔵文化財発掘調査事業については、その担当者を後記文中に記した。
4. I. 埋蔵文化財発掘調査事業にあたっては、松下文一氏から多大なご理解とご協力を賜った。記して感謝の意を表すところである。
5. 事業実施にあたり、次の機関からご指導とご協力を賜った。記して感謝の意を表すところである。
相原嘉之、木下正史、清水昭博、田辺征夫、寺崎保広、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部、奈良県文化・教育・くらし創造部文化財保存課、奈良県立橿原考古学研究所（個人名は敬称略、五十音順）
6. I. 埋蔵文化財発掘調査事業の挿図における座標値は世界測地系座標である。
7. 本書の編集は課員の協力のもと石坂泰士が行った。

目 次

序

例言・目次

I. 埋蔵文化財発掘調査事業	1
令和4年度埋蔵文化財発掘調査一覧表	1
令和4年度埋蔵文化財発掘調査地位位置図	1
埋蔵文化財発掘調査概要報告	2
藤原京右京十一一条五坊（榎文2022-1次）	2
本薬師寺跡、藤原京右京八条三坊（榎文2022-2次）	6
II. 埋蔵文化財申請業務	10
III. 史跡整備事業	10
IV. 指定文化財維持管理事業	11
V. 無形民俗文化財保存事業	11
VI. 普及啓発事業	12

I. 埋蔵文化財発掘調査事業

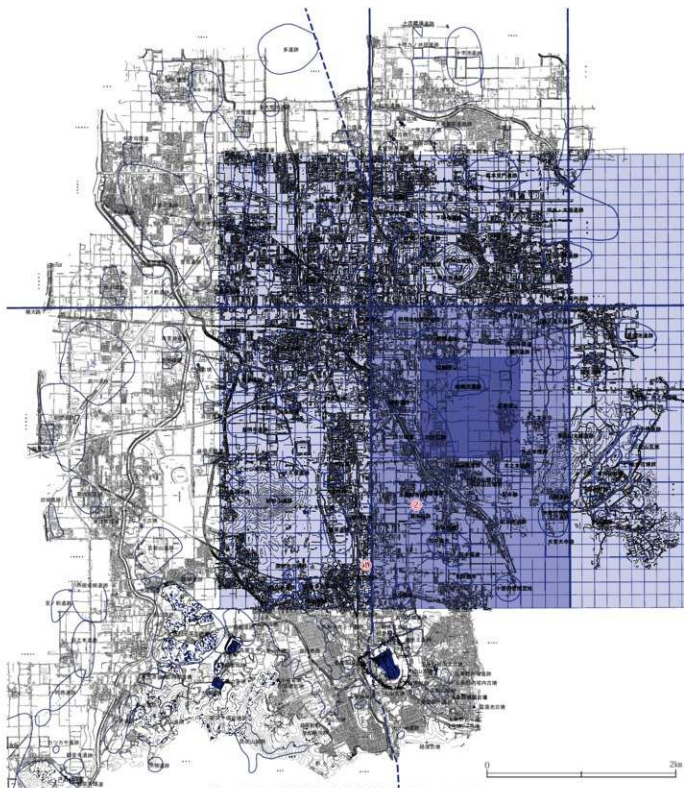
令和4年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

No	調査回数	遺跡名	調査地（横浜市）	調査面積	調査期間（令和）
①	2022・1次	藤原京右京十一條五坊	久米町地内	120.0㎡	4.09.14 - 4.09.15
②	2022・2次	本薬師寺跡、藤原京右京八条三坊	城殿町359-1、360-1	42.3㎡	5.02.22 - 5.03.10

調査回数は、発掘調査開始時に横浜市が付したものである。また、市長部局への移管に伴い、令和4年度からは従来の横教委〇〇-〇〇次という表記に替えて横文●●-●●次との表記を採用している。

一覧表のNo（①・②）は下記位置図の数字と対応している。

また、令和4年4月1日～令和5年3月31日まで京奈和「大和・御所区間（横浜市域）」埋蔵文化財調査整理業務を実施した。



埋蔵文化財発掘調査概要報告

榎文 2022 - 1 次

藤原京右京十一條五坊

調査地 福原市久米町内

調査期間 令和 4 年 9 月 14 日～令和 4 年 9 月 15 日

調査面積 120.0 m²

調査原因 市有地売却事業

1. はじめに

今回の調査は福原市の南部、久米町に所在する市有地の売却事業に伴って実施した試掘調査である。調査地は(旧)福原市立福祉施設かしの木園の跡地で、調査時には更地となっている。また、かしの木園の建設以前は昭和 50 年頃まで(旧)福原市立敎傍中学校の敷地として利用されていた場所である。

調査地は藤原京の範囲に含まれる。復元条坊による呼称では右京十一條五坊にあたり、調査地の東隣の敷地には下ツ道(西四坊大路)が通る。調査地の近辺、旧敎傍中学校敷地を対象として福原市教育委員会が過去に実施した発掘調査では、近現代の開発によって丘陵地が削平され遺構面が広く消失し一部の谷地形部分のみが遺存する状況の地点が多く確認されている。なお、『大和国条里復原図』では敎傍山の東側を流れる桜川の旧流路が調査地近辺で蛇行して下ツ道付近に繋がる状況が描かれている。

2. 調査の概要

調査区は東西方向に長い形で三ヶ所に設定している。調査区の名称は北から順に 1 区・2 区・3 区としている。調査は 3 区・1 区・2 区の順で実施している。調査区の規模は 1 区・2 区が南北幅 2.0 m・東西長 25.0 m・面積 50.0 m²、3 区が南北幅 2.0 m・東西長 10.0 m・面積 20.0 m²、合計面積 120.0 m²である。

基本層序は以下の通りである。

I 層：現代造成土(現代。上面高は周辺歩道面と同一。厚さ約 0.5～2.5 m)

II 層：黄褐色・褐灰色パイラン土(地山)

調査地のほぼ全域で現代造成土(I 層)の直下で地山(II 層)を検出しており、近世以前の耕作層・耕作溝も遺存しない状況を確認している。II 層上面は周辺の調査地点と同様、丘陵地を大幅に削平した後の状況で検出されている。また、調査地の複数の範囲で近現代の開発行為による深さ 1 m 以上の攪乱が存在している。唯一、2 区西端部および 3 区西半部において西側に



図 1 発掘調査地位置図 (S=1/5,000)

向かって落ち込む溝を確認している。溝は青灰色シルト～粘土を埋土とし、深さは最大約 1.5 m を測る。2 区と 3 区の溝は同一の溝であると考えられ、河道である可能性がある。ただし、溝の範囲内も攪乱の影響が大きく、遺物も出土していないので詳細は不明である。

3. まとめ

調査の結果、調査地帯はかつての丘陵地が近現代に大幅な削平を受け、敷地西辺沿いに旧河道の堆積層と考えられる溝のみがわずかに残る状況を確認している。この溝については桜川の旧流路である可能性が考えられる。

調査地から南方に位置する丈六北遺跡や丈六南遺跡、藤原京右京十二條五坊城においては古墳時代や古代の遺構・遺物が確認されており、調査地帯にも同様の遺跡が存在していた可能性はあるものの、過去の地形改変により概して遺存状況が悪く、今回の調査地も同様である。調査一帯の近世以前の史態解明は今後の調査に期待したい。(上井佐史)

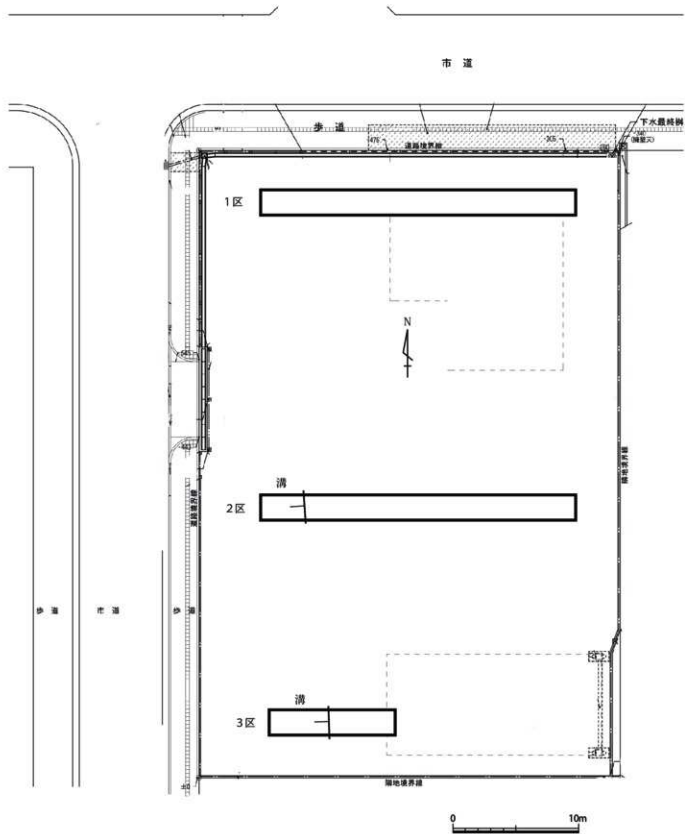


图2 遺構平面图 (S=1/300)



写真1 1区全景 完掘状況 -東から-



写真2 2区全景 溝検出状況 -西から-



写真3 3区全景 完掘状況 - 東から -



写真4 1区中央部 土層断面 - 北から -



写真5 2区中央～東半部 完掘状況 - 南西から -



写真6 2区西半部 完掘状況 - 北東から -



写真7 3区中央部 土層断面 - 北から -

本薬師寺跡、藤原京右京八条三坊

調査地 榎原市城殿町 359-1.360-1

調査期間 令和5年2月22日～令和5年3月10日

調査面積 42.3 m²

調査原因 範囲確認調査

1. はじめに

今回の調査は、榎原市城殿町において実施した本薬師寺跡の範囲確認調査である。調査地は、特別史跡本薬師寺跡の南東隣接地で、現在は水田として利用されている。

調査地は本薬師寺南門から東に約100mの地点にあり、本薬師寺の寺域である藤原京右京八条三坊の東南隅に位置する。

平成30年度に当市が実施した発掘調査（榎教委2018-3次）で初めて南門を確認している。この成果を受け、昨年度より南門及び区画施設の範囲確認調査を実施しており、今回は2回目となる。昨年度実施した発掘調査成果（榎教委2021-4次）では、八条大路の北側溝から北に約19mの地点で、東西方向に一直線にのびる掘立柱塼を検出している。今回は、本薬師寺南門からのびる塼の寺域東南隅部の検出を目的として調査を実施した。

2. 調査区の設定

今回の調査では、昨年度の成果を受けて、

- ①南辺の塼は、南門から寺域の東南隅まで、東西に一直線にのびる。
- ②西二坊大路の西側溝から東辺の塼までの距離が、南辺の塼と同様に約19mである。

と想定し、本薬師寺の東南隅の塼を検出すべく、西二坊大路西側溝から西に約19m、八条大路の北側溝から北に約19mの地点に、東西6.0m・南北6.0m・計36.0m²の規模で、調査区を設定した。その後、遺構の有無を確認するため、調査区西辺北側で東西1.5m・南北3.8m・計5.7m²、調査区北辺東側で東西1.1m・南北0.5m・計0.55m²の拡張を行っている。

3. 層序と調査の方法

調査区の基本層序は以下のとおりである。

- I層：水田耕作土（現代。上面の標高76.6～76.7m）
- II層：灰黄褐色砂質土（床土。上面の標高76.5m）
- III層：暗灰黄色粘質土（旧耕作層。上面の標高76.3m）
- IV層：灰黄褐色砂質土（本薬師寺造営時または廃絶後の整地層。調査区の東～南部に分布。土器は飛鳥IV期を中心で、瓦、径



図3 発掘調査地位置図 (S=1/5,000)

5cm程度の花崗岩の礫を含む。調査時は分層できなかったが、上層・下層に分けられる可能性がある。上面が遺構検出面。上面の標高76.0～76.2m)

V層：褐灰色粘質土（自然堆積層。上面の標高75.9～76.0m)

調査は、III層まで重機掘削した後、IV層上面で、人力で上層遺構の検出及び遺構の調査を行った。そしてIV層上面での上層遺構の調査終了後、本薬師寺に関わる遺構の調査を行った。ただし、IV層上面には本薬師寺に関わる遺構が存在しなかったため、IV層が本薬師寺廃絶後の整地であると考えた。そこで、V層上面で本薬師寺に関する遺構の有無を確認するため、一部でIV層を除去し、V層上面で検出を行った。

また、塼を構成する柱穴の有無を確認するため、2カ所で拡張区を設定している。

4. 調査成果

調査の結果、遺構は上・中・下層の3期に分けられる。上層は中世以降、中層は飛鳥時代、下層は古墳時代以前の遺構と考えられる。本薬師寺に関する遺構の保護のため、中層については遺構の半截、下層については平面での検出に留めており、遺構の掘り下ろしは行っていない。

上層遺構（中世以降、詳細な時期は不明）

上層遺構には、素掘り溝、溝SD26があります。素掘り溝は、東西、南北方向のものがあり、東西→南北→東西の順に新しくなることが分かった。

SD26は西でやや北に振れる東西方向の溝で、IV層上面で検出しているため、飛鳥時代以降と考えられるが、出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。

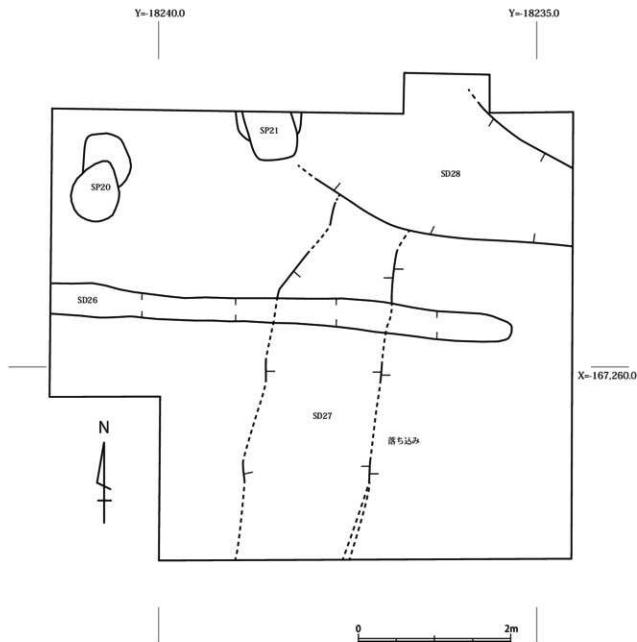


図4 遺構平面図 (S=1/50)

中層遺構

中層遺構には柱穴2基がある。

SP21は、1辺約0.8mの隅丸方形で、深さ0.4m、断面U字形である。埋土には、明黄褐色の粘土ブロックを多量に含む抜き取り穴をV層上面で検出した。

SP20は、1辺約0.6～0.7mの不整形円で、深さ0.3m、断面方形である。V層上面で検出した。SP21と同様に柱抜き取り穴に、黄褐色の粘土ブロックを少量含む。

下層遺構

溝2条と落ち込みを確認している。

SD27は南西-北東方向の溝で、最大幅1.6m、深さ0.3m以上を測る。時期は、弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられる。調査地の南に位置する瀬田遺跡に関連する遺構と考えられる。

SD28は、北西-南東方向の溝でSD27より新しい時期の遺構である。最大幅2.2m、深さ約0.15mを測る。

落ち込みは、調査区南東部に位置している。調査区の南東隅に向かって深くなり、最も深いところで約0.4mの深さである。

5. まとめ

今回の調査では、本薬師寺に関連する可能性がある遺構として、柱穴2基(SP20・21)を確認した。

SP20については、東・南にのびる柱穴はないことから、西及び北側に向かって調査区外に柱列が続く可能性があり、寺域東南隅の塼の柱の可能性がある。

SP21については、塼の一部であった場合、真西・真南側に続きの柱穴が並ぶが、精査した結果、柱穴の想定される位置には遺構が存在しないことを確認しており、塼の柱穴でないかと考

えられる。

このことから、以下の2つの可能性が考えられる。

- ① SP20が東南隅の柱にあたり、寺城南辺では東西方向に一直線に塼がのびる（ただし、塼は東で北に約1°振れる）。
- ② SP20・21は塼の柱穴ではない。

なお、②であった場合、寺城南辺の塼は、①東西方向に一直線にのび、昨年度調査地と今回の調査地の間で北に折れ曲がる
②昨年度調査地より東でクランク状に南に折れ曲がり、今回の調査地より東または西側で北に折れ曲がる、の2つの可能性が考えられる。

以上の通り、今回の調査では東南隅の塼を特定することができていない。今後は塼の調査計画の再検討を行い、寺城南東隅の様相を解明していく必要がある。（平岩欣太・上井佐紀）



写真8 上層遺構完掘、中層遺構検出状況 -西から-



写真9 SP21 土層断面 -南から-



写真10 SP20 土層断面 -東から-



写真 11 調査地全景 - 南東から。伽藍中核方向を望む -



写真 12 下層遺構検出状況 - 南から -

Ⅱ. 埋蔵文化財申請業務

令和4年度 埋蔵文化財申請件数一覧表

	踏査願	埋蔵文化財発掘届出					埋蔵文化財発掘通知					現状変更		取下書
		通知内容					通知内容					許可申請	完了届	
		発掘調査	工事立会	慎重工事	工事先行	計	発掘調査	工事立会	慎重工事	工事先行	計			
道路								10		1	11			
住宅		12	21	57		90								
個人住宅		7	45	114		166								1
店舗		5	2	4		11								1
住宅兼工場等			1			1								
その他建物		3	5	2		10								
宅地造成		10	8	7		25								
その他開発			2	10		12	1	1			2			
ガス等			10	48		58	20	8			28			
農業関係								1			1			
河川								1			1			
学校							1				1			
工場														
公園造成														
観光開発												3	3	
学術		1												2
遺跡整備														
その他				1		1		1		1	22	11		
計		1	37	94	243	374	1	31	12	1	45	25	16	2
総件数														463

Ⅲ. 史跡整備事業

史跡地の公有化

史跡公園整備に向け、史跡指定地の公有化を図っている。

○丸山古墳

所在地：榑原市五条野町・大軽町

概要：越智岡丘陵の東、高取川をはさんで東に続く台地の西端に、前方部を北にして築かれた6世紀後半の大型の前方後円墳である。

墳丘全長約330m、後円部径約150m、前方部幅約210mを測り、県下最大の前方後円墳である。

石室の全長は26m以上あり、玄室内に2個の家形石棺があることが判明している。

(1) 公有化基本方針

現在、古墳の前方部の一部は国道169号線によって分断された状態にあり、完全な前方後円墳としての形は整えていないが、墳丘の大部分と東側の周濠や周庭帯は部分的にその姿をとどめている。可能な限り古墳本来の姿を保ちつつ、市民生活の

中に活用し、保存と活用を調和させながら将来にわたる本市の象徴の一つとしたい。

(2) 公有化計画

史跡の現況を考慮し3地区に分類し、地区ごとの計画を定める。なお、今後も調査研究や地域の社会環境の変化に応じて地域区分に修正を加えていくものとする。

【公有化事業】

令和4年度事業：大軽町 130.58㎡

○菖蒲池古墳

所在地：榑原市菖蒲町

概要：甘樫丘から西南に延びる丘陵の南斜面に築かれた7世紀中頃の一辺約30mの方墳である。埋葬施設は南に開口する横穴式石室で、玄室には家形石棺が2基安置されている。墳丘の背面・側面に堀割が巡る。古墳東側の外堤部分では、古墳に伴うと考えられる石敷遺構も確認されている。また、古墳の築造からそれほども時期を経ない藤原宮期墳（7世紀末頃）には、古墳の破壊に伴う大規模な土地変化が周辺一帯で行われている。

(1) 公有化基本方針

当古墳は、後世に削平を受けているものの遺構は良好に遺存しているため、史跡地内においては全域公有化を進める予定である。

(2) 公有地化計画

令和3年度の公有化事業は、令和4年度へ繰越しを行い、令和4年度中に完了の見込みである。また、史跡地内で未公有化地である石室部分についての公有化についても、所有者への了解を得ながら進めていく。

【公有化事業】

令和3年度(令和4年度繰越):菖蒲町四丁目 3,469.91㎡

令和4年度:菖蒲町四丁目:18.45㎡

明日香村大字川原:26.85㎡

IV. 指定文化財維持管理事業

1. 草刈

史跡地およびその周辺への雑草の影響を軽減し、また見学者が快適に見学できるように配慮し、年1回以上の草刈を実施している。

【作業箇所】

国指定特別史跡本薬師寺跡、国指定史跡新沢千塚古墳群、国指定史跡大山古墳、国指定史跡菖蒲池古墳、国指定史跡植山古墳

2. 修理事業

指定文化財修理事業経費の部分補助を行っている。

【解体修理】

国指定重要文化財建造物旧織田屋形大書院および玄関
(今井町)

【部分修理】

国指定重要文化財建造物河合家住宅(今井町)
国指定重要文化財建造物上田家住宅(今井町)
国指定重要文化財建造物音村家住宅(今井町)

3. 管理事業

指定文化財管理事業経費の部分補助を行っている。

【事業実施箇所】

○国指定重要文化財建造物橿原神宮本殿(久米町)、国指定重要文化財建造物久米寺多宝塔(久米町)、国指定重要文化財建造物人麿神社本殿(地黄町)、国指定重要文化財建造物瑞花院本堂(飯高町)、国指定重要文化財正蓮寺大日堂(小綱町)、国指定重要文化財建造物今西家住宅(今井町)、国指定重要文化

財建造物豊田家住宅(今井町)、国指定重要文化財建造物高木家住宅(今井町)、国指定重要文化財建造物中橋家住宅(今井町)、国指定重要文化財建造物音村家住宅(今井町)、国指定重要文化財建造物河合家住宅(今井町)、国指定重要文化財建造物森村家住宅(新賀町)

○県指定建造物旧上田家住宅(今井町)、県指定建造物古川家住宅(山之坊町)、県指定彫刻木造聖徳太子立像(大久保町)

○市指定建造物旧常福寺観音堂付棟札2枚(今井町)、市指定建造物旧常福寺表門(今井町)

また、毎年文化財防火デー前後に合わせて行われる消防署による消防設備の点検を文化財所有者立会いの下、合同で行っている。

V. 無形民俗文化財保存事業

【橿原市だんじり保存会】

市内に現存する優れただんじりを普及・啓発し後世に伝承することを目的とし、だんじりに関する調査、研究並びにだんじりの維持管理事業を行っている。現在、橿原市には保存会により江戸時代末期から明治時代にかけて製作されただんじりが10台(十市町7台・今井町2台・小綱町1台)が保存されている。

○だんじり維持管理

提灯修理等

○令和3年度補正予算事業「子供たちの伝統文化の体験事業」
「橿原市指定民俗文化財「十市の地車、今井の地車」だんじり曳行体験」

小・中学生を対象に、橿原市に伝わる伝統文化の一つである地車(だんじり)曳行体験イベントを、重要伝統的建造物群保存地区である今井町で開催した。会場では、市指定民俗文化財「十市の地車」「今井の地車」のうち4台の地車の曳行体験と、地車の解説、子供太鼓による囃子、伊勢音頭の実演を実施した。

【ほうらんや奉賛会】

県指定文化財及び国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択を受けた「東坊城のホーランヤ」を継承することを目的に活動している。

○松明材料費

青竹・荒縄・菜種柄・小麦藪等

VI. 普及啓発事業

1. 講師派遣

市内外の要請に応じて、講師の派遣を行っている。以下に令和4年度の派遣内容を記す。

○4月9日(土)

THE KASHIHARA【大人のプレミアム体験】「五感で楽しむ日本の歴史!土器を肌で感じる古代の息吹」ナイトツアー 講師として

歴史に憩う橿原市博物館・新沢千塚古墳群
松井一晃

○4月26日(火)

新沢地区ふれあいサロン 講師として

歴史に憩う橿原市博物館・新沢千塚古墳群
文化財保存活用課員

○5月18日(水)

高蒲池古墳現地解説 講師として

高蒲池古墳

松井一晃

○5月25日(水)

「学びを生み出す～歴史に憩う橿原市博物館における学習プログラムの実践」講師として

南山大学

松井一晃

○7月9日(土)

新沢地域こども教室「拓本製作」講師として

歴史に憩う橿原市博物館

松井一晃

○7月24日(日)

歴史教室「日本国はじまりの地 藤原京」講師として

橿原市中央公民館

杉山真由美

○7月31日(日)

歴史教室「大和三山」講師として

橿原市中央公民館

上井佐妃

○8月4日(木)・5日(金)

お仕事体験イベント「お仕事体験 考古学者になろう」

イオンモール橿原

文化財保存活用課職員

○8月7日(日)

歴史教室「新沢千塚古墳群」講師として

橿原市中央公民館

松井一晃

○8月9日(火)

「律令国家誕生への道～壬申の乱 1350年～天武天皇と藤原京」講師として

奈良大学

平岩欣太

○8月20日(土)

「輸入陶磁器の世界」講師として

堺市博物館

上井佐妃

○8月20日(土)

近畿大学 教育プロジェクト・香具山スクール「古墳にいる虫から自然を考えよう」講師として

歴史に憩う橿原市博物館・新沢千塚古墳群

松井一晃

○8月27日(土)

「藤原京で暮らしてみると」講師として

葛城市歴史博物館

露口真広

○9月3日(土)

大和を撮る37「本薬師寺跡」講師として

奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

石坂泰士

○9月27日(火)

まほろば高齢者大学校「大和三山」講師として

橿原市中央公民館

上井佐妃

○10月12日(水)

まほろば高齢者大学校「藤原京」講師として

橿原市中央公民館

露口真広

○11月19日(土)

THE KASHIHARA【大人のプレミアム体験】「五感で楽しむ日本の歴史!土器を肌で感じる古代の息吹」ナイトツアー 講師として

松井一晃

○11月23日(水)

FMヤマト我が町情報 自治体イチオシ情報「橿原市の歴史の話」出演

FMヤマト 本社スタジオ

露口真広

○11月26日(土)

西池尻町つながり事業実行委員会「令和4年度学ぼう!遊ぼう!子どもゆめ基金助成活動」講師として

歴史に憩う橿原市博物館・新沢千塚古墳群

松井一晃

○11月26日(土)

曲川町自治会「曲川町の歴史に関する講座」 講師として

曲川町自治会館

石坂泰士

○12月10日(土)

なら記紀・万葉プロジェクト首都圏講座「壬申の乱から天武・
持統天皇の時代へ」 講師として

奈良まほろば館

松井一晃

○1月11日(水)

FMヤマト我が町情報 自治体イチオシ情報「とんど祭り」出演

FMヤマト 本社スタジオ

露口真広

○2月22日(水)

FMヤマト我が町情報 自治体イチオシ情報「歌碑めぐり」出演

FMヤマト 本社スタジオ

露口真広

令和 4（2022）年度 橿原市文化財調査年報

発行日 令和 6（2024）年 3 月 29 日

編集・発行 橿原市役所 魅力創造部 文化財保存活用課
〒634-0826 奈良県橿原市川西町858-1
TEL 0744-22-4001（代）
